

生涯学習・社会教育関係職員研修講座

三八地区研修

7月13日(火)南部町楽楽ホール 受講者20名

この事業は、「生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上のため、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修を行うとともに、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得と、人材育成を目的とした研修を行い、ネットワーク形成を図る」ことをねらいとしております。

地区研修では、県内6地区それぞれの社会教育・生涯学習関係における課題を踏まえ、その解決に向けたお話をして下さる講師を迎え、講義・演習としております。

今回の三八地区研修では、「地域・社会への主体的な参画と地域活性化」と題し、廣瀬隆人氏に御講義いただきました。

講師の廣瀬先生は、北海道で高校教員、青少年教育施設、行政機関でのご勤務を経て、1995年から国立教育会館社会教育研修所（現国立教育政策所社会教育実践研究センター）専門職員、2000年以降は宇都宮大学教授、北海道教育大学大学院教授を歴任されました。

現在は、一般社団法人とちぎ市民協働研究会 代表理事として、御専門の地域づくり、学校と地域の連携などの分野で、栃木県内の各団体で指導・育成にあたられている他、山形県における地域学の研究・実践などにも携わっていらっしゃいます。

また、地域づくりやコミュニティスクール、人権教育などの分野で御講演されています。各地で全国的視野からの的確な御助言・御指導を行っていらっしゃいます。

なお、本研修は栃木県にいらっしゃる講師から、WEB 会議システムを通じ、南部町にある会場参加者に御講義いただくオンライン研修として実施しました。



講義「地域・社会への主体的な参画と地域活性化」

講師 一般社団法人とちぎ市民協働研究会
代表理事 廣瀬 隆人 氏

講義要旨

- 地域は、人と人とのつながりでできています。つながりを強くしたり、新しいつながりを作ろうとしたりする営みが、「社会教育」そのものであり、人々が幸せに生きていくために必要不可欠なものです。
- 人は生きていく上で、辛さや苦しさに出合うことがあります。助け合う仲間がいれば、それらは半減されます。人とのつながり、知人や友人を増やすきっかけは、同じ楽しみ、同じ趣味、同じ困り事を抱えている人たちが集まることで生まれます。だからこそ、人の集う場が大切なのです。
- 生涯学習・社会教育に関わる者は、積極的に住民に声をかけ、住民の話を丁寧に聞き、講座やセミナーを手がけ、仲間の輪が広がるように営んでいくことが求められているのです。

実は、この三八地区研修における廣瀬先生の御講義は、昨年度に続き2年目となります。

昨年度の御講義では、国の施策や、「地域づくり」の意義や課題などについて大変分かりやすくお話ししていただき、「さらにお話を聞きたい。」と受講者からの強い希望もあって、今回の研修実現となりました。

お話は社会教育・生涯学習の動向と地域づくりから始まり、地域活動の現実と現状、社会教育の充実のために



何が必要か、社会教育と学校教育との関係、公民館が果たす役割などについて、更には住民の社会教育事業へ主体的な参画についてや、その実現のために社会教育関係者がすべきことなどに及びました。

廣瀬先生は、「何事においても地域によって大きな違い、差異というものがある」故、安易に事例に学ぶべきではない、とおっしゃいます。むしろ、地域の資源と歴史に根付いた「地元の先人事例」に学ぶことが大切と訴えていらっしゃいます。

また、そのお話の根底には、常に「社会教育は人の幸せのためにある」という思いが流れ、出席した社会教育関係職員は強く励まされ、感想にあるようなコメントを寄せています。

質疑応答でも、時に「社会教育委員不要論」さえ聞くことがある、との受講者からの憤りにも似た発言に、社会教育のもつ力を強く唱え、是非自信を持って仕事に向かって欲しいと語りかけました。

資料も、本テーマで200枚近いスライドをご準備いただき、加えて「学校運営協議会と地域学校協働活動について」、「地域づくりについて」の資料もいただき、受講された方はたくさんのおみやげをいただきました。



(受講者の感想)

- ・ 社会教育は、人とのつながりで成り立っているという内容で、今行っている事業について見直すきっかけとなりました。廣瀬先生の熱意ある講座、とても刺激になりました。
- ・ 地域のつながりが、弱くなってきていると感じている今頃でしたので、受講して私にできることから始めようと強く思いました。ありがとうございました。
- ・ 地域づくりは、「人と人とのつながり」を大切にするのを再認識しました。社会教育に限らず、いろんな活動に共通することなので、今後に生かしていきたいな、と思いました。ありがとうございました。
- ・ 社会教育全般を振り返ることができた。「つながり」の重要性を更に感じる事ができた。今後も若い世代の活動の場づくりとモデルになれるよう、活動をしていきたい。
- ・ 子どもが少なくなっている中で、地域・学校・家庭のつながりをどうすれば良いのか、またそれを地域の活性化につなげられるのか考えるよいきっかけとなった。